



高山西ロータリークラブ

# 例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「春、まだ遠く」

蜘蛛 康介

## ＜会長の時間＞

私は 40 歳の時輸血を受け慢性肝炎で辛い思いをしていましたが、丁度 50 歳になった平成元年に、肝炎の原因ウイルスが発見されました。原因がわかれば治るのも夢ではありません。このころ私の知り合いの 40 代の男性が、輸血後 8 年くらいで肝臓がんで亡くなりました。私は自分の肝臓を触ったことがありませんでしたが、念のため触診してみました。右の肋骨の下にかなり固くなった肝臓をふれました。血液検査でも肝硬変の目安になる血小板が 6 万から 8 万前後でしたから、間違いなく肝硬変になっていたようです。輸血後 10 年で肝硬変ですから、進行が速いタイプだったのだと思います。運が悪ければ 55 歳くらいで癌になります。このころはまだ現在のように肝臓癌の治療法が発達していませんでしたから、癌になれば助かる見込みはありません。



私が 54 歳の時、IFN が C 型肝炎の保険適応になりました。治療率は 100 人中 45 人位ですが肝硬変には適応がありません。私の場合使用してもだめだろうと諦めていましたが、その年の暮れ、ある会で先輩の内科医師からぜひ使用してみるべきだと強気に進められ、12 月から半年間治療しました。治療開始後 1 か月目から肝機能検査値がピタッと正常値になり、15 年間苦しんだ病気から解放されました。これはまさに夢のようなうれしさです。命が助かったので、これからは世のため人のため役に立つことを何かしようと決心しました。

勿論右から左にすぐに何かの仕事があるわけではありません。私が 57 歳の 10 月半ばの事です。私の妻は「高齢社会をよくする女性の会」の高山支部長をしており、高山市長に老人保健施設の建設のお願いに行ったところ、高山市は市庁舎を建設したばかりで資金がないから民間で作ってほしいとの事なので、あなたが作ったらどうです、といいます。私は早速知り合いの開業医に老人保健施設を造りたいと一緒にやいませんか、と誘いの電話を入れましたが、そんなことは個人の力では無理だよ、とけんもほろろに断られました。名古屋の同級生に電話で問い合わせたところ、6 億円以下なら何とか経営が成り立つが、現実にはそれ以上必要なので諦めたといいます。誰か実業家の協力をたのんでみたらと言います。そういうわけで、私はその頃イケイケどどんの土建業のある実業家に相談したところ、とても面白い話だと乗

り気になってくれました。経営的に成り立つかどうか独自に調べるので 3 日ほしいといわれ、その日を待ちましたが、結果的に無理だと返事でした。結局一人で持ち上げることになり、県のほうに申請書の提出をしました。その年の 12 月 20 日が締め切りなので、その日までに設計図と事業計画書の提出をしてくださいということでした。土地と設計士をきめないといけません。名古屋の大手の設計会社を紹介してもらいました。その会社の設計士は我々の現状と資産を聞いてまさに口をあぐり開けるほどびっくりして『皆さんは何年もかけて計画してもうまくいくとは限りませんよ。』到底無理ですと断りました。その頃たまたま高山に仕事で来ていた岐阜の設計士を紹介されました。老健の設計はしたことがないので是非やらしてほしいと意欲的でした。あちこちの老健と一緒に見学して回りました。それと同時に土地探し

土地が決まらなると設計図はひけません。高山市内には 1500 坪から 2000 坪の土地はおいそれとみつきません。諦めかけていたところ近所のおばさんが、自転車で行っていたら三方道路に囲まれた土地があったよ、という情報があり設計士と一緒に見に行きました。そこは田圃でしたが環境的にも広さもまさにぴったりです。ここを建設予定地として設計図を引いてもらうことにしました。地主が 4 人いてなかなか一筋縄ではいかない癖のある人達ということがわかりました。私の友人がそのうちの一人と知り合いだということで面談の日時を決めてもらい、午後 6 時に訪ねることになりました。近所のおばさんが、酒 2 升を持って行って受け取ってもらえれば期ありで受け取ってもらえなければ諦めるこっちゃな、とアドバイスしてくれました。妻と二人で酒 2 升を持って訪ねました。日本の高齢社会の状況や将来的に老健が必要になる事などを一時間近く話しました。土地を貸すという返事はもらえなかったのですがお酒は拒否されなかったもので、帰宅後妻と幸先が良いと乾杯しようとしていたところ玄関でピンポンとなって、地主さんがこの酒は受け取れませんと玄関に置いてそそくさと帰ってしまいました。やっぱり駄目なのかと相当落ち込みました。ところがこういう困った状況になると私には有難いことに起死回生の閃きが浮かんでくるか、誰か助けてくれる人が出てきます。今までに何度かきわどいところで助けられたことがあるので、私は最後まで耐える者は牧われるという聖書の言葉を心から信じています。

## 奉仕を通じて平和を

# 例会報告

## <幹事報告>

### ◎ガバナーより

- ・韓国第 3600 地区年次大会  
交換交流派遣学生募集案内  
期 間 7月26日(金)～  
7月30日(火)の5日間の予定  
場 所 韓国第 3600 地区京畿道地域(ソウル近郊)  
募集人員 25名(各学校2名までの応募を認めます)  
負担金 60,000円  
申込締切 5月24日(金)必着  
面接選考 選考日 6月2日(日)13:00～  
集 合 ハートフルスクエアG



### ◎高山市文化協会より

- ・平成 25 年度通常総会の開催について(ご案内)  
日 時 5月29日(水) 午後7:00～  
場 所 高山市民文化会館2-5会議室  
議 題 平成24年度事業報告及び収支決算報告について

### <受贈誌>

(株)生駒時計店(13-14 カタログ)

## <出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	42名	2名	44名	52名	84.62%
本日	43名	—	43名	52名	82.69%

## <本日のプログラム> 出席プログラム委員会

### 委員長 洞 口 良一

本日は出席・プログラム委員会の担当です。本日の講師に吉井 隆雄様をお招きいたしましたのでご紹介させていただきます。

吉井様は、文化庁から文化財保護法による「公開承認施設」に指定されている、中山町の光記念館 光ミュージアムの主任学芸員でいらっしゃいます。1960年(昭和36年)生まれで千葉県出身。筑波大学を卒業され平成8年より光ミュージアム準備室に勤務され、現在に至っております。専門は日本美術・考古・博物館学。平成24年には岐阜県博物館協会の功労賞を受賞されています。また、平成23年6月に宮城県で、平成24年9月・10月は福島県で、文化庁・東日本大震災文化財レスキューに従事されています。文化財レスキューでは、東日本大震災で建物の下になった文化財を掘り起こし、復元・修正、また収納される業務に携われ、本日はその様子についてお話いただきます。尚、今回の例会にあたっては、田近毅さんにご尽力いただきました事を申し添えます。では吉井様、お願い致します。



### 福島県被災文化財レスキューに参加して

#### 光ミュージアム 主任学芸員 吉井 隆雄 様

東日本大震災被災文化財レスキューとして東京電力福島第1原発事故警戒区域内の作業に平成24年9月下旬と10月上旬の2回に渡り参加させて頂きました。福島県の災害は、地震、津波、原発、風評被害の四重苦といわれています。人命第一、復興第一の中で文化財救出にお金をかけることはいかなるものかという考えがありますが、復興には伝統文化や文化財が不可欠であり、その土地のアイデンティティが大切になってきます。その為、救出作業は水面下で進められました。そして、福島県は他の被災地と予想以上に違っていました。始め宮城県に赴いて手応えを感じ次は福島県へと行く気に逸る私に送られてきた参加書類は放射線汚染に対する細かな注意事項でした。正直なところ少し躊躇しましたが、日本人として同胞の為に尽くす事が大事と参加を決意し、第1原発から約5キロ離れた福島県大熊町の民俗伝承館の作業に当たりました。この中で私どもは、重要資料の仕分け、梱包、放射線量測定、搬出作業等を行いました。土器や石器などを外部に持ち出す為、1点ずつ放射線量を測定し安全を確認しなければなりません。さらに作業は、1日5時間に限定され、室温30℃を超える中、窓も開けられず防護服を着用して行われ、終了してからは全てスクリーニングの検査を受けました。二夏を超えていたので一部の資料にはカビもあり、また、放射線量が著しい資料は持ち出し厳禁となりました。これらの資料は仮倉庫に納められ、現在は白河市の「まほろん館」に収蔵されております。文化財は地域の宝であり、復興のシンボルになります。いつか住民の皆様が故郷に帰った時に保存された文化財が心のよりどころになればとの思いで参加しました。このような依頼があればぜひ、また、文化財の専門家として文化財救出のお手伝いをさせて頂きたいと存じます。そして、一日も被災者の皆様が自宅へ戻れますよう願っております。更にこの経験から、飛騨高山が被災した際には各博物館・美術館が協力して助け合えるように、高山市教育委員会を中心にまとまって行動して行きたいと考えおります。

# 例会報告

## <ニコニコボックス>

### ●折茂 謙一さん

①本日は光記念館主任学芸員 吉井隆雄 様ようこそお出で下さいました。御講話楽しみにしています。

②孫の一人が医学部1年生となり、もう一人看護大学2年生となりました。

### ●米澤 久二さん

光記念館 吉井様、ようこそいらっしゃいました。本日はよろしくをお願いします。

### ●洞口 良一さん

光記念館 主任学芸員であられます吉井隆雄様、本日はお忙しい中御講話をお願いしました所快くお引き受けいただきありがとうございます。よろしくお願ひ致します。

### ●田近 毅さん

光記念館 主任 吉井様のご来訪を歓迎致します。明日より海外出張とお忙しい中をお出で頂きました事に感謝申し上げます。被災文化財の保存と除染の取り組みについて、お話し楽しみにしています。

### ●山下 明さん、山本 善一郎さん

光記念館の吉井隆雄様の御来訪を歓迎いたします。卓話楽しみにしています。

### ●井辺 一章さん

昨日は私の誘いにこ応じ、滑川・水橋漁港のホタルイカ三昧ツアーに参加いただいた6名の会員の皆さま、ありがとうございます。また、皆様のたつての希望で神岡町跡津の私の生家(現在無人)にご案内でき、感慨深い思いをさせてもらいました。

### ●小森 丈一さん、阪下 六代さん、堀川 和士さん、田中 正躬さん

昨日は井辺さんの計画いただいたホタルイカ食べつくしツアーに参加させていただきました。茹でたてのホタルイカの味はまた格別、ビールとの相性が良くて今朝が心配になる程でした。楽しかった一日に感謝してニコニコへ。

### ●新井 典仁さん

4月11日、富山県滑川市に朝獲れたてのホタルイカを食べに連れて行っていただきました。海の近くで朝からビールとホタルイカは最高でした。ご一緒させていただきました方々ありがとうございました。

### ●古橋 直彦さん

先週はスピーチの機会を頂きありがとうございました。演台の原稿が見えにくく、というより殆ど見えませんでした。加齢が加速度をまして進行しているようです。本日よりシニアグラスデビューしました。

### ●岡田 賛三さん

久しぶりに出席しました。名札を持って行って忘れて来ました。

### ●山本 善一郎さん

(株)システム・エンジニアリングの社長を長男 山本 善隆に渡し会長に就任しました。今後ともよろしくお願ひいたします。

### ●寺田 昌平さん

①誕生記念に祝いをいただきありがとうございました。年はとりたくないのですが。

②ベル薬局新装開店を4月1日にしました。追加工事が色々出て落ち着くのはまだ先です。

③外孫の二番目が南小学校に入学しました。少しいですが。

### ●野戸 守さん

双子の孫が斐太高校・西高校へと入学しました。

### ●塚本 直人さん

4/7に長男が新宮小学校に入学しました。わんぱくで元気な長男なので、これからが楽しみでもあり、ホッとしている所です。感謝いたします。本日は年度初め会議のため早退します。

### ●向川原 毅彦さん

大変お世話になりました。高山西ロータリークラブの益々の発展と皆様方のご健勝とご多幸を祈念します。

## ●●●●一期一会 「反省」 長瀬 達三 ●●●●

我が社の会社理念は「喜びあふれる人と人とのつながりを創生し、社会の健全な発展に寄与する」という大それたテーマがあります。この理念を実現するには些か未熟者ではありますが、未熟者なりに、書物で偉人の思想にふれたり、諸先輩方との出会いの中での学びを参考に、「職業人の使命」ということについてあれこれと考えてみましたら、企業経営者であれ、医師であれ、はたまた士業に従事する人であれ、すべての職業人に共通した責務は、己の事業や職業を通じて社会に貢献することであろうという事に思い至りました。社会に必要とされる商品やサービスを提供し、より良い社会作り貢献する企業や職業人は、時代や社会構造の変化に左右されることなく、みんな活き活きとしています。翻って、自分のクラブ出席率の低さを分析してみると、まだまだロータリーを通じた社会貢献がいかなるものなのかが自分に定着していないのだな、と反省しています。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

## ●●●●一期一会 塚本 直人 ●●●●

現在45歳となり人生の折り返し地点を過ぎました。高山西ロータリークラブの皆様方との出逢いもすべてが一期一会ですが、自らの仕事に対して、使命を感じ、誇りを持ち、そして充実した職業意識を持つきっかけになった出逢いをお伝えします。

彼は私よりひとまわり下の20代でした。当時私は長男が誕生し、人生についても一度考え直し、スタートを切りなおした直後のことでした。彼はD生命保険の担当者で宮井さんといっています。生来の頭の良さと、性格の素直さを兼ね備え、仕事に対しての意欲も多い好青年でした。「塚本さん、マーケットは飽和状態ですが、まだまだ成熟はしていません。使命感を持ち、お客様に支持される仕事をしていきましょう。」と心強い言葉と共に私を支えてくれました。それから約5年が過ぎ、先日1通の封書が彼から届きました。彼女との結婚の報告でした。夫婦となった彼らのお祝いをするのが楽しみです。おめでとう。

奉仕を通じて平和を